

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月17日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	児童・生徒一人ひとりの発達段階や障害の状態に応じた学習課題の設定、指導方法の工夫、教材・教具の開発を推進し、児童・生徒が「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業を実践する。	①児童・生徒の実態に応じた課題の設定、指導方法の工夫により「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業を実践する。	①児童・生徒の発達段階や障害の状態について、校内研究、サポートプログラム等を活用しながら教材・教具の作成および適切な課題の設定により「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業を実践する。	①校内研究、サポートプログラム等を活用して「すぐにわかった!」「自分でできた!」の観点で授業を計画・実践すること。また、作成した教材・教具を校内外に発信・共有することができたか。	①校内外の教員向け講座を実施。校外から5名が参加した。サポートプログラムでは、依頼者の授業を関係職員で参観を行い、助言、教材の工夫に取り組み、児童生徒の実態の見立て方や目標設定の仕方など授業改善につなげることができた。	①サポートプログラムを支援学校勤務3年未満の教職員を対象者として広げて、困り感やすぐに相談できるような仕組みや共有しやすくすることが必要である。	①保護者アンケートで肯定的評価84%。 授業改善が行われ、わかる授業につながったことが伝わった。	①校内外への発信とともに講座や研修により授業改善が進んだ。さらに必要としている職員へのサポート体制を整える。	①サポートプログラムを支援学校勤務3年未満の教職員を対象者として広げる。
		授業において、ICT機器の1人1台専用端末を積極的に利活用し、学びのツールとして有効な実践例を積み重ねる。	②タブレット端末の活用について、児童・生徒が授業等で活用できる実践例を共有し、各学部においてさらなる活用につなげる。	②タブレット端末について、離れた場所をオンラインでつなぐこと、自分専用にカスタマイズして日常的なツールとしての活用等、校内研究と関連させて事例を共有できる場所を確保し、児童・生徒が授業で活用できる体制を整える。	②タブレット端末の授業での活用について、校内研究と関連させて授業実践例を共有し、授業での活用につなげることができたか。	②A 高等部と分教室をつなげて合同授業を行った。ひまわり学級とリモートでつなぎ、学期の活動の振り返りを一緒に行った。「Classroom」アプリを使って授業内の提出物、行事のしおり作り、日々の日誌の記入を行った。	②情報機器を有効かつ安全に活用していくために職員向けの情報セキュリティの研修を行う必要がある。情報機器操作のスキルは生徒により異なることを踏まえ、より生徒一人ひとりに合わせた指導が必要である。	②保護者アンケートで肯定的評価50%。 子どもたちにとって自分を表現することはつながりの第1歩。離れて活動していてもオンラインでつながったことはとても良いこと。	②授業での活用事例を積み重ねることができた。活用方法の共有と年代に応じた安全な活用を進める。	②職員向け研修や、活用事例の共有を進める。
2	児童・生徒 指導・支援	児童・生徒一人ひとりが互いの人格や多様性を尊重し、自他を大切にする心と互いにかかわりながら生活する力を育てる。	①-1 いじめアンケート（高等部）の実施により、いじめの早期発見につなげるとともに、再発防止を図り、互いの人格や多様性を尊重し、自他を大切にする心を育てる。	①-1 いじめアンケート（高等部）を各学期に実施し、生徒の状況を把握するとともに、いじめが疑われる場合には、適切かつ迅速に対処する。	①-1 いじめアンケート（高等部）により生徒の状況を把握し、いじめの早期発見及び防止に努めて、自他を大切にする心を育てることができたか。	①-1 アンケート結果をいじめ対応検討委員会で検証し、状況を把握できた。日常的に職員間で日々の児童・生徒の状況を共有し、チームで対応している。	①-1 アンケートの趣旨を正確に伝えることが難しい生徒について、日々の行動観察を中心とした補助的な調査方法を考えていく必要がある。	①-1 保護者アンケート肯定的評価44%。 重大事案が起きないように引き続きアンケートだけに頼らず日ごろから生徒に目を配っていけるとよい。	①-1 重大事案は起きなかった。 アンケート内容の見直しや、行動観察による適切な対応を行う。	①-1 アンケートの内容については、生徒の実態に合わせて見直しを継続する。日ごろの様子の共有を大切にする。
			①-2 地域や関係機関の資源を活用して職員・保護者研修を行い、SNSのマナーや日常の危険回避等のアドバイスを日々の教育活動に取り入れる。	①-2 保護者向けにSNSに関する研修会、保護者や地域の方、職員向けに性教育に関連した内容の研修会を実施する。	①-2 保護者向け研修会、職員向け研修会等により得た内容を参考にして、生徒がSNSのマナーや、自身を守ることについて学ぶことができたか。	①-2 SNS に関する研修内容や情報を関係者で共有できた。また、性教育をテーマとした研修内容を教職員と保護者で共有できたことで、共通理解のもとに話をすることにつながっている。	①-2 SNS 研修会については、保護者がより参加しやすい設定を検討し、年度の早い時期に危険性や対応の仕方共有していけるようにする。必要に応じて家庭との連携を行う必要がある。	①-2 保護者アンケート肯定的評価54%。 「SNS」という言葉が多く出てきている。このことについての問題点に取り組んでいただいていることは非常に良いこと。	①-2 保護者向け研修会は生徒指導につながる内容として実施できた。より多くの方が参加しやすい工夫をする。	①-2 研修会の開催時期や内容の周知など工夫し、保護者と共有しながら生徒指導につなげる。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月17日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	成功体験を積み上げる教育活動により自信や意欲を高めて、将来の自立と社会参加や、自分らしい生き方を見つけるための支援を行う。	①-1 将来の自立と社会参加や、自分らしい生き方を見つけるための支援を行う。  ①-2 進路先の見学会、保護者向け進路学習会を実施し、児童・生徒が将来の生活をイメージできるように支援する。	①-1 日々の教育活動でよい所、得意な所を見つけて、その部分をさらに伸ばす支援を行う。  ①-2 小・中学部向けに進路見学会、保護者向け進路学習会を実施する。	①-1 保護者・教員間でよい所、得意な所を共有し、教育活動に取り入れることができたか。  ①-2 進路先の見学会、保護者向け進路学習会を実施し、児童・生徒が将来の生活をイメージできるように支援することができたか。	①-1 連絡帳での情報共有や、iPad でコミュニケーションの場面を見て児童生徒の様子を共有した。文化祭の販売で、客から言葉をいただくことで生徒の自信につながった。 ①-2 高等部保護者向けの進路説明会や施設・企業見学見学会、中学部と小学部保護者対象の進路説明会、小中保護者対象の施設見学会を実施した。	①-1 引き続き、家庭と連携しながら児童の得意な所を伸ばす取り組みを行う。  ①-2 小中学部保護者から、進路先の詳細な情報提供をしてほしいと要望があった。部門、学部で分けて、説明会を実施する等工夫する必要がある。	①-1 保護者アンケート肯定的評価81%。 褒めてもらい自信が持てるようになり、色々な事にチャレンジするようになった。 ①-2 保護者アンケート肯定的評価 80% 社会人の先輩の話を直接聞く機会やグループホームなどの見学など出来たら、本人自身も将来のイメージが湧きやすいと思う。	①-1 交流場面など自信をもつことにつながる活動場面を保護者と共有した。引き続き伸ばす支援を行う。  ①-2 各学部で進路説明会、見学会を実施した。今後は保護者のニーズを受けて将来のイメージを持てるように工夫する。	①-1 地域社会につながる内容等で、得意な所を生かせる活動に取り組む。  ①-2 各学部の保護者のニーズに合わせた実施方法の工夫を行う。
4	地域等との協働	地域社会を実践的な学びの場ととらえて、日々の学習で培った力を地域社会への貢献活動として発揮するなどの取組を教育課程に位置付けて実践する。	①-1 地域社会で学ぶ内容を教育課程に位置付けるとともに、地域の方や保護者に向けて取り組み内容を発信する。  ②地域と学校の行事について、作品展示や発表などお互いにメリットがある内容を実施し、児童生徒の自信につなげる。	①-1 児童・生徒の地域活動をとして清掃活動、施設の活用等に取り組み、HP等で発信する。 近隣大学との授業等の連携について模索し、実施につなげる。  ②田園調布学園大学、王禅寺町内会、子ども文化センター、ヴィラージュ虹ヶ丘等とお互いにメリットがある活動内容を検討、実施する。	①-1 地域社会で学ぶ内容を教育課程に位置付けて、活動内容を地域の方や保護者に向けて発信することができたか。  ②地域と学校の行事について、お互いにメリットがある内容を実施し、児童生徒の自信につなげることができたか。	①近隣大学への校外学習で体験学習や食堂で食事をする経験ができた。 虹ヶ丘公園の清掃活動についてあさおインフォメーションに掲載し、保護者や地域への発信をすることができた。 ②王禅寺町内会主催「夏休み木工教室」「麻生ユニバーサルコンサート・パラアート展」「カフェグランデあさお」への展示を通して、本校卒業生、保護者、地域の方や関係機関の方々 と触れ合うことができた。	①地域社会と交流の機会として、あさおインフォメーションや HP 等、地域への発信方法を検討する。地域施設を利用し、生徒の実態に応じたインターンシップ実習を進める。 ②麻生区以外の自治体からイベント参加のお誘いを受けているが、今年度は参加できなかった。職員の体制を含めて参加する範囲と、作品展示のみなど参加方法について検討・改善が必要である。	①-1 保護者アンケート肯定的評価 66%。 地域を巻き込んで学校がどんどん出ていくことに共感を持てた。他校との交流は子どもたちにとってもうれしいものと感じる。 ①-2 保護者アンケート肯定的評価 86% 王禅寺町内会木工教室は青少年部の方も大勢参加し、参加した方は大変喜んでいた。☆柿祭やアートコース発表会などほとても良い発信だと思う。	①-1 あさおインフォメーションや HP を使って地域や保護者に向けて地域社会での学習内容を伝えた。地域での活動を継続し、児童生徒の活動の幅を広げる。 ①-2 地域へのイベントの参加、学校で地域の方が参加するイベントそれぞれ実施し、児童生徒の自信につながった。お互いの交流を深めて継続していく。	①-1 活動内容の周知方法としてあさおインフォメーションや HP の活用と、児童生徒が地域に貢献できる活動を継続する。  ①-2 実施後の振り返りを行い、継続する際は児童生徒の状況に合わせて参加内容、方法について検討する。
5	学校管理 学校運営	「児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」を活用し、児童・生徒が安心して学ぶことができる学校にするとともに、取組の好事例を共有する仕組みを構築して、短期間で内容の充実・更新を図る。  災害時や非常時に備えて、関係機関と協力して訓練・研修等に取り組み、児童・生徒が安全に学ぶことができる環境を整える。	①児童・生徒への丁寧なかかわりの取組について、発信・共有できる仕組みを作り、保護者の意見を取り入れて内容の充実と職員の意識向上を図る。  ②スクールバス運行時等児童生徒通学時の安全確保について、関係機関と連携して具体的な対策を作成し検証する。	①児童・生徒への丁寧なかかわりの取組について、学部等から発信・共有する。 保護者アンケートを実施し、意見を取り入れて内容の充実を図る。  ②スクールバス運行時に災害が起きた場合の安全確保について、川崎市（区役所）および関係機関と連携して計画を策定する。	①児童・生徒への丁寧なかかわりの取組について、職員間で発信・共有することができたか。 保護者の意見も取り入れて内容の充実を図ることができたか。  ②スクールバス運行時等児童生徒通学時の安全確保について、関係機関と連携して具体的な対策を作成し検証することができたか。	①職員会議で好事例の取組みを紹介し学校全体で職員の意識向上を図った。また、保護者アンケートを実施し、スタンダードのブラッシュアップを行い、職員、保護者へ周知した。  ②スクールバス内に災害時用セットを配備した。発災時に GPS の導入について、試験導入した。バスルート近辺に立地する、田園調布学園大学、元石川高等学校と、スクールバス運行時に発災した際の対策について話を進めることができた。	①児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダードの学部等での取組は周知したが、職員がお互いに認め合い、よい取組みを取り入れる実践を積み重ねることが課題である。  ②地域とのつながりの中で、発災時に協力を得られる場所を増やしていく。地域に発信していくと同時に校内・バス会社との情報共有を進め、発災時に適切な行動がとれるようにする。	①保護者アンケート肯定的評価 84%。 職員が当事者意識を持つことや保護者の生の声を聴くことが大事であり、次に生かせる内容であった。  ②保護者アンケート肯定的評価 68% バス運行時の安全確保について、地域との協力を得られる内容が実現していくことをうれしく思う。	①アンケートをとり、周知はできたが、今後は職員と保護者で作る「丁寧なかかわりのスタンダード」を目指すことができるとうい。  ②地域に発信していくと同時に校内・バス会社との情報共有を進め、発災時に適切な行動がとれるようにする。	①保護者との茶話会に教職員が参加し、「丁寧なかかわりのスタンダード」について話題にする。  ②現在進めている関係機関との連携を拡げるとともに、GPS 機能の整備を進める。